

平成22年度
事業報告書

自 平成22年4月 1日
至 平成23年3月31日

社会福祉法人信達福社会 法人本部
特別養護老人ホームあつかし荘
総合老人福祉施設梁川ホーム
特別養護老人ホーム・デイサービス川俣ホーム

事業報告書 目 次

1 法人本部事業報告

1. 会務運営状況
2. 本部事務

2 各施設事業報告

(1) あつかし荘

1. 特別養護老人ホームあつかし荘・あつかし荘短期入所生活介護（ショートステイ）
2. あつかし荘指定居宅支援事業所

(2) 梁川ホーム

1. 特別養護老人ホーム梁川ホーム・梁川ホーム短期入所生活介護（ショートステイ）
2. ケアハウス広瀬
3. 梁川ホーム通所介護（デイサービス）
4. 梁川ホーム指定居宅介護支援事業所
5. 伊達市梁川地域包括支援センター

(3) 川俣ホーム

1. 特別養護老人ホーム川俣ホーム・川俣ホーム短期入所生活介護（ショートステイ）
2. 川俣ホーム通所介護（デイサービス）

(4) 被災、避難高齢者の受け入れ状況

3 各施設利用状況等

添付資料

各施設事業月別入所・利用状況

1 法人本部事業報告

1. 会務運営状況

(1) 評議員会の開催（2回）

日時	平成22年5月24日（月）	午後2時
場所	梁川ホームケアハウス広瀬	出席評議員数19名
議案	21年度事業報告 等	
日時	平成22年12月24日（金）	午後2時
場所	梁川ホームケアハウス広瀬	出席評議員数22名
議案	育児休業、子の看護休業、育児短時間勤務等、就業規定の一部改定 等	

※22年度補正予算、23年度事業計画、23年度当初予算等を諮る評議員会は、東日本大震災被災等により、会議定足数等の関係により開催できなかった。

(2) 理事会の開催（8回）

日時	平成22年4月1日（木）	午前10時
場所	梁川ホーム家族介護者教育室	出席理事数10名
議案	理事長の互選、常務理事の任命 等	
日時	平成22年5月25日（火）	午前10時
場所	梁川ホーム家族介護者教育室	出席理事数11名
議案	21年度事業報告、被服の支給等に関する規程改正 等	
日時	平成22年8月27日（金）	午後3時
場所	福島ウェディングエルティ	出席理事8名
議案	評議員の委嘱 等	
日時	平成22年9月30日（木）	午前10時
場所	梁川ホーム家族介護者教育室	出席理事数11名
議案	契約の締結	
日時	平成22年11月16日（火）	午前10時
場所	梁川ホーム家族介護者教育室	出席理事数9名
議案	あつかし荘スプリンクラー事業指名入札参加業者の選考 等	
日時	平成22年11月29日（月）	午前10時
場所	梁川ホーム家族介護者教育室	出席理事数12名
議案	契約の締結、評議員の委嘱 等	
日時	平成22年12月27日（月）	午前10時
場所	梁川ホーム家族介護者教育室	出席理事数11名
議案	育児休業、子の看護休業、育児短時間勤務等、就業規定の一部改定 等	
日時	平成23年3月25日（金）	午前10時
場所	梁川ホーム家族介護者教育室	出席評議員数11名
議案	22年度補正予算、23年度事業計画、23年度当初予算、契約の締結 等	

(3) 監事会の開催

日時	平成22年5月19日(水) 午前10時
場所	梁川ホーム家族介護者教育室
内容	(1)事業報告、(2)財産目録、(3)貸借対照表、(4)収支決算書、(5)事業活動計算書

(4) 役員研修会

日時	平成22年8月27日(金) 午後3時半
場所	福島ウェディングエルティ 出席者 理事、監事、幹部職員
内容	社会福祉法人の役割について

(5) 苦情解決委員会

日時	平成22年7月27日(火) 午後2時30分
場所	梁川ホームケアハウス広瀬 出席委員5名(第三者委員)
議題	21年度事業報告、22年度事業計画

2. 本部事務

(1) 利用者の権利擁護、虐待防止

利用者の権利擁護に関する職員の意識強化と虐待・身体拘束のない介護推進を目的とし、資料配布による学習会を実施(毎月)した。

(2) リスクマネジメント

- ① 各施設の事故状況の把握とリスクマネジメント活動への支援を行った。
- ② 各施設の毎月及び年度を通しての事故統計と考察作業を行った。
- ③ 資料配布による学習会を実施(毎月)した。

(3) 認知症介護

- ① 認知症介護委員会(各施設毎月)に出席し助言と活動への支援を行った。
- ② 資料配布による学習会及び認知症ケアのマニュアルの学習会を実施(毎月)した。

(4) 法人三施設相互交流実務研修

三施設の提供サービスの質の高度化と職員の資質向上を目的とし、三施設間の交流実務研修を実施(7月、8月、9月)した。

(5) サービス評価事業

- ① サービス評価委員による自施設評価および実地見学を含む相互評価を行った。
- ② この事業が提供サービスの質の向上に効果的に結びつくよう、評価項目の改訂と評価結果に基づく改善活動を推進した。

(6) 職員処遇の向上

介護職員処遇改善交付金の活用による介護職員の賃金の改善と22年度のキャリアパス要件を満たす整理を図った。

(7) メンタルヘルス相談

職員が精神面の健康を保持して業務に従事でき、また各施設・事業所の精神保健衛生の向上に資するため、本部相談窓口に専用ダイヤルを設置し、職員のメンタルヘルスに関する相談しやすい環境を整備し対応した。

(8) パソコンネットワーク化

パソコンネットワークシステム化による一元体制の確立により、業務の効率化及び情報の共有化を推進し、業務管理体制の強化と経費の軽減を図った。

(9) 平成22年度福島県認知症介護実践者等養成事業

認知症介護リーダー研修会等への講師派遣を行った(2回)。

2 各施設事業報告

(1) あつかし荘

1. 特別養護老人ホームあつかし荘・あつかし荘(ショートステイ)

- ① 身体拘束廃止委員会を定期的に開催し、身体拘束その他行動制限等の廃止徹底に努めた。
- ② 多職種による栄養マネジメントを実施し、利用者の栄養改善に努めた。
- ③ サービス改善委員会を中心に、サービス評価の低評価部分の改善に努め、評価を上げた。

2. あつかし荘指定居宅介護支援事業所

- ① 利用者に対する正確な認定調査、有効なケアプランを作成し、適正な給付管理に努めた。

(2) 梁川ホーム

1. 特別養護老人ホーム梁川ホーム・梁川ホーム(ショートステイ)

- ① アクティビティ活動の充実に努め、身体状態の低下により終日をベッドで過ごされている重度の方にも気分転換のための外出を安全に実施することが出来た。
- ② 歯科医、歯科衛生士による口腔ケアの指導と、管理栄養士によるソフト食の改良を踏まえ、食べ物を食べるために適切な姿勢の保持に努めたことにより、利用者により安全に食事を食べていただくことが出来た。
- ③ 看取り・栄養ケアマネジメント・認知症介護リーダー研修への参加及び内部研修会の実施に積極的に取り組み、会得した知識や技術を実際の介護サービス提供に反映させることが出来た。
- ④ 家族懇談会を開催し、ホームで提供している食事試食や入浴サービスについて具体的に説明をすることにより、これまで以上に家族に対して一層の理解を深めていただくことが出来た。

2. ケアハウス広瀬

- ① 入居者同士がお互いに協力しあいながら生活を送ることが出来るように、様々な行事を実施し、参加を促進して親睦を深める機会作りに努めた。
- ② 感染症対策に取り組んだ結果、入居者の皆様にインフルエンザやノロウイルスに感染しないで過ごしていただくことが出来た。

3. 梁川ホームデイサービスセンター

- ① 農閑期にフリー参観日を実施し、ご家族より利用中の様子を理解することが出来たと評価をいただいた。
- ② 6月に菖蒲湯、8月に湯の花風呂、12月にゆず湯、2月に香り風呂を実施し、利用者に大変喜んでいただけた。

4. 梁川ホーム指定居宅介護支援事業所

- ① 個々の利用者及び支援経過をケアプラン検証会議で共有し、事業所全体で利用者支援を行なうことが出来た。
- ② 医療機関との入退院時の情報共有に努めた結果、利用者が退院後も安心して自宅での生活に戻るための相談をスムーズに行うことが出来た。

5. 伊達市梁川地域包括支援センター

- ① 伊達市高齢福祉課及び関係機関と連携しながら、高齢者虐待防止に積極的に取り組み、早期解決を図れるように力を尽くした。
- ② 地域の高齢者の認知症を予防するため、特定高齢者の閉じこもり予防訪問指導事業に参加、精力的に活動を進めた。

(3) 川俣ホーム

1. 川俣ホーム全事業

- ① 感染症予防並びに職員の安全の徹底
感染症対策委員会を中心に情報発信や予防策の充実化を図り、利用者の感染防止に努めることができた。また職員の健康管理にも配慮し、介護現場においても移乗用マット等腰痛軽減となる福祉用具の活用も推進することができている。
- ② 稼働率向上による経営の安定化
特養においては定期的な入所検討会の開催により適正な入所順位検討を行うと共に、入退所の円滑化を図り、短期入所や通所介護においては、家族や事業所との信頼関係の構築に向けた努力を行った。また各事業とも常にコストバランス、コストパフォーマンスを念頭に置き、健全な経営を保てるように日々の業務に励んでいる。
- ③ 「防災マニュアル」「職員行動マニュアル」の制定
全体研修会や消防訓練においてもマニュアルへの意識付けを行うことができた。実際に東日本大震災が起こればパニックの中での職員の行動指針になり得たと考えるが、今後も内容の補足や見直しを検討し充実化を図り、職員が携帯し活用できるようにして

いく。

2. 特別養護老人ホーム川俣ホーム・川俣ホーム（ショートステイ）

① プライバシーへの配慮と環境づくりの推進

内部研修等によりプライバシー保護についての意識付けを深め、利用者個々の意向を尊重しながら生活しやすい空間づくりに努めることができた。しかし共有スペースの有効活用は不十分で今後も継続した取り組みを実施していく。

② 看護師、介護士の連携強化

異常の発見や緊急時の連携に関しては実施できていたが、日常の利用者の心身状況の把握を進めることで骨折や入院などが防止可能であったと感じる。尿路感染での入院者も数名おり、日々の健康管理やケアの統一化、そして関わりを通じて利用者の変化に気づき、即対応を行なう事で利用者の安心に繋げていく。

3. 川俣ホームデイサービスセンター

① 自立支援に基づいた日常生活援助

利用者及び家族の要望を十分に引き出すことができるよう、連絡帳の活用や送迎時に積極的にコミュニケーションを図り、できる範囲内で要望に応えるべく努力した。また利用者個人の潜在能力に働きかけながらできる部分の把握に努め、職員間での統一ケア徹底に向けミーティングや会議での周知徹底を行った。

② 送迎車両の充実化

日本財団からの助成により車椅子のまま乗車できる車両が導入された。また随時送迎表の見直しを行い、効率的な送迎実施に取り組んでいる。運転業務担当者に対する安全運転講習会が震災の影響で延期となり23年度に再計画を行う。

③ 地域への啓蒙活動

定期開催が実施できず、広報紙での福祉に対する啓蒙活動に留まってしまった。

（4）被災、避難高齢者の受け入れ状況

東日本大震災ならびに福島第一原子力発電所事故により被災、避難された高齢者に対して、3施設合わせて延べ12名（国見町2名、梁川町5名、双葉町3名、南相馬市1名、大熊町1名）の緊急受け入れを行い、各施設管内の避難者はすでに帰宅されているが、現在4名の施設等に戻ることが困難な避難者の方を受け入れている